

5. 歯学部

(1) 歯学部の教育目的と特徴	5-2
(2) 「教育の水準」の分析	5-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	5-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	5-10
【参考】データ分析集 指標一覧	5-12

(1) 歯学部の教育目的と特徴

1. 本学部の教育目的

本学部の教育目的は、長崎大学の中期目標“長年にわたり培ってきた大学の個性と伝統を基盤に、新しい価値観と個性輝く人材を創出し、大きく変容しつつある現代世界と地域の持続的発展に寄与する”の下、幅広い教養と最新の専門知識、また歯科口腔医療に関する基本的技術を習得し、患者の安心と信頼を得られる人間性豊かな歯科医師を輩出することにある。具体的には以下の5項目を教育方針としている。

- 責任感、社会性を持ち、歯科医師としての倫理観と豊かな人間性を身につけている。
- コミュニケーション能力と協調性を身につけている。
- 生命科学へのリサーチマインドを身につけている。
- 離島等の地域歯科医療について、保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる。
- 先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を身につけている。

この目的を達成するために、本学部における6年間で学生は大別して以下の二つの教育を受ける。一つは普遍的学士像となる基盤的知識、自ら学ぶこと、地球と地域社会及び将来世代に貢献することを涵養するための『教養教育』であり、特に本学独自の「全学モジュール科目」と「学部モジュール科目」によって「批判的精神」「探究力」「チームワーク力」「一歩前に進む力」などの能力・態度を育成する。今ひとつは歯科医学の専門的知識と、歯科医療に関する基本的態度と各種専門技能を得るための『専門教育』であり、口腔生命科学を体系的に学び、研究者や専門職業人としての基盤的知識並びに先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い技能を修得する。

本学部の教育目的のステークホルダーとして想定する関係者は以下の3つに挙げるカテゴリーで、彼らの期待に答えることが出来るような優秀な歯科医学を担う人材を育成する責務がある。1) 患者、地域住民：口腔疾患の治療と伴に、包括的な地域医療の一翼を担い健康長寿に貢献する。2) 学生：患者さんに安心感と信頼感を与えられる歯科医師や歯科医学の発展に貢献できる歯学教育研究者になるために必要な歯学に関する専門知識とともに基本的教養や幅広い知識が修得できる教育課程を提供する。3) 医療関係者：本県唯一の高次歯科医療機関として要の役割を果たすと伴に、歯学に関する専門知識、責任感と社会性を身につけた歯科医師及び歯科医学の発展に貢献する歯学研究者を輩出する。

2. 本学部の教育の特徴

本学部の特徴的な科目は、総合大学の特色を生かして、医歯薬学とのシームレスな共修カリキュラムの設定である。1年次の初年次セミナーから3年次の歯薬による関連臨床医学、4年と5年次の医歯薬共修の医と社会、そして5年と6年次の医歯薬保健学科、4学科合同の離島実習を通して、今後、具体化する地域包括ケアに向けて多職種連携の知識と技術の応用・実践を行っている。また、他の本学カリキュラムの特徴として総合科目、統合科目がある。総合科目のなかでは、1年次後期に毎週1日学外の総合病院歯科、開業歯科医院、大学病院（特定機能病院）病棟の下で見学する「学外早期体験実習」が特徴的といえる。早期に歯科医師としてのコンピテンシーを自覚し、より高度な全ての患者に質の高い歯科医療を提供できる歯科医師を志す者としての意識を向上させることが狙いである。本カリキュラムと同時に総合科目の中で行われる「歯学展望」にて各専門科目の初歩的な知識を教授することで、「学外早期体験実習」時の一助としている。統合科目では、「高齢者歯科学」や「障害者歯科学」「摂食嚥下リハビリテーション学」「睡眠障害と疾患」など横断的科目により幅広い専門性を学修させる。この中で「口腔感染症及び免疫学」や「口腔顔面疼痛学」など9科目ではPBL形式を取り入れ、アクティブラーニングによる能動的学修を図っている。また「歯科臨床東洋医学」や「離島歯科医学」などは他に類を見ないもので特徴的科目である。さらにA0入試選抜者及び履修希望者を対象とした「歯学研究コース」では、大学院進学を前提に、臨床歯科口腔医学、基礎歯科口腔医学、口腔生命科学を切り拓く将来の担い手となるべくリサーチマインドの醸成を図っている。

(2) 「教育の水準」の分析**分析項目 I 教育活動の状況****<必須記載項目 1 学位授与方針>****【基本的な記載事項】**

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7605-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 2 教育課程方針>**【基本的な記載事項】**

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7605-i1-1）（再掲）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 3 教育課程の編成，授業科目の内容>**【基本的な記載事項】**

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7605-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料（別添資料 7605-i3-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 医歯薬及び保健学科との共修カリキュラム

本学部の特徴的な科目は、総合大学の特色を生かした医歯薬学とのシームレスな共修カリキュラムである。1年次の「初年次セミナー」から3年次の歯薬による「関連臨床医学」、4年と5年次の医歯薬共修の「医と社会」、そして5年と6年次の医歯薬及び保健学科、4学科合同の「離島実習」を通して、今後、具体化する地域包括ケアに向けて多職種連携の知識と技術の応用・実践を行っている。

[3.1]

医歯薬共修科目一覧

学年	科目	共修	備考
1	初年次セミナー	医・歯・薬・保	教養教育科目
1	学外早期体験実習	市中の歯科医院および大学病院病棟(看護部)における実習	歯学部専門教育科目
3	関連臨床医学	歯・薬	歯学部専門教育科目
4	医と社会Ⅳ	医・歯・薬	医学部専門教育科目
5	医と社会Ⅲ	医・歯	医学部専門教育科目
5-6	離島実習	医・歯・薬・保	臨床実習

長崎大学歯学部 教育活動の状況

○ 歯学研究コース

平成 26 年度より、歯学研究コースの研究発表会を公開の場で行い、英語によるプレゼンテーションを義務付けており、発表を教務委員及び研究企画推進委員により採点し、最優秀者 1 名には海外研修の機会を与えている。実績として平成 28 年度は 2 名、平成 29 年度は 7 名、平成 30 年度は 12 名、令和 1 年度は 9 名の計 30 名の発表者があり、計 2 名が海外研修を行った。現在まで A0 入試を経て歯学研究コースを履修した学生数は 37 名で、A0 入試以外で入学した学生でも歯学研究コースを履修した学生は 18 名で、次第に研究マインドを涵養するカリキュラムの成果として、研究に意欲を示す学生が増えている。[3.1]

○ 全学教養課程短縮に伴う専門課程のカリキュラム改編

全学での教育カリキュラムの改革が行われている。クォーター制の導入（2021 年度入学者より施行）、授業時間の変更（歯学部の場合は 60 分授業に変更 2019 年度入学者より施行）、全学教養課程の 1.5 年への短縮（2021 年度入学者より施行）などのカリキュラムの改善に対応して、歯学部での専門課程のカリキュラムも 2018 年度より歯学部教務委員会内にカリキュラム改訂ワーキングを設置して、次の世代にマッチするカリキュラムの検討を行った。その結果、研究室配属での研究への意識の啓発などを柱とした歯学部独自のカリキュラムを設定して、2021 年度より 3 年次の第 4 クォーターで一般歯学研究を開始することとした。[3.1]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

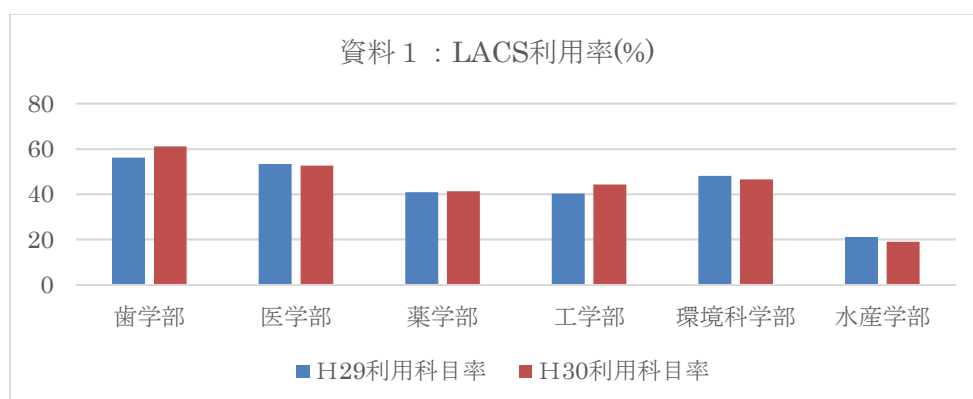
- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7605-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 7605-i4-2～4）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7605-i4-5）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 7605-i4-6）
- ・ 指標番号 5， 9～10（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

○ e-learning LACS の状況

長崎大学では e-learning のプラットフォームとして全学的に高度な機能をもつ LACS（主体的学習促進支援システム）を活用している。本学部では、双方向の

オンライン学習の導入を目的に、LACS の利用講習会に教員、学生共に積極的に参加を勧めるなど広報活動を行った。平成 29・30 年度の調査によれば、LACS を利用している科目率は学内の理科系学部の中なかでは最も高い。[4.1] (資料1)



○ アクティブラーニングの推進

本学部では以前より PBL 形式の授業が統合講義を中心に行われている。さらに一般の授業でも学生に自習させ発表させる形式の授業が増加している。平成 28 年度に LACS 上でのクリッカーシステムが整備されたことで、このシステムを使った講義中でのアクティブラーニングの実施が容易になり、学生自身で考え、他人の意見を取り入れながら理論を構築する能力を養う教育カリキュラムが採用されるようになった。少人数のグループ討論での応用だけでなく、教員からの各学生への到達目標の判定にも有効で、きめ細かな学修支援が行えるようになった。この LACS クリッカーの FD を実施し、教育における PDCA サイクルの拡充に寄与している。[4.1]

資料2 : アクティブラーニング実施率

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
90.4%	94.2%	97.1%	97.2%

<必須記載項目5 履修指導, 支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7605-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7605-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 7605-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 7605-i5-4)

長崎大学歯学部 教育活動の状況

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 履修指導に関しては、学生委員長と教務委員長を中心として、配慮すべき学生に対して、個別カウンセリングを適宜行い、必要であれば、本学の修学支援体制を利用して、カウンセラーによるメンタルカウンセリングも積極的に取り入れながら出来るだけの履修指導を行っている。また、LACSなどのシステムを活用して、学生への連絡事項の活用、課題の提示、ビデオ教材の導入などきめ細かい履修指導と各科目において到達目標の評価のフィードバックを行っている。教育環境整備に関して、第3期は歯学部C棟の2-8階の改修工事、B棟の改修工事などがあり、講義室及び改築前はなかったPBL室（全19室）の改修も完了し、少人数のグループ学習等に対応できる教育環境は整いつつある。最後の改修である地下1階と1階の工事が2020年6月頃完了すると、医歯薬保健学科の共修を念頭に置いた、素晴らしい教育環境が遂に完成する。医学部も含めた全学科が共修科目の充実に向けて、教育カリキュラムの改訂及びPBL室を含む講義室の統合的運用の試案を作成中である。[5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料7605-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料7605-i6-2～3）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料7605-i6-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 全学で運用している成績評価及びポートフォリオの活用により、教養教育から専門教育へのシームレスな移行を推進している。さらに医歯薬保健学科との共修プログラムの評価に関しては、各分野担当者が集まって、多職種での連携における学習効果の判定及びカリキュラムの到達度・理解度の成績評価を総合的に行っている。5年次では、CBT及びOSCEでの客観的な成績評価を行っている。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料7605-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料7605-i7-2～3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2019年度からは、臨床実習の終了時点での知識を確認するために、臨床実習の評価とともに8月に臨床知識理解度試験を施行し、11月には卒業認定試験を行って最終的な卒業判定を行っている。それぞれの試験において、施行の目的と判定基準を明確にして、学生の学習到達度の客観的な評価を可能にしている。（臨床実習の評価及び修了認定に関する申合せ及び卒業認定試験の実施及び評価に関する申合せを添付（別添資料 7605-i7-4）） [7.1]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7605-i1-1）（再掲）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7605-i8-1）
- ・ 指標番号1～3，6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生定員
歯学部歯学科の学生定員（学生定員及び現員表）は、これまで1学年当たり一般学生が50名で全学年合計で300名である。長崎大学歯学部のアドミッション・ポリシーの内容を理解して、高いモチベーションを持った学生を受け入れるために、今期では、様々な入試改革を行った。まず、近年の英語教育の充実とグローバル化への対応を受けて、入試科目に2019年度入学者より英語を必修とした。また、AO入試、前期日程、後期日程全てで個人面接を導入して、予め出願時に提出させる個人調書を基に、受験生の意欲を見出す取組を始めた。また、2020年度からは、全学の入試改革に歩調を合わせる形で、より意欲の高い、高校でのしっかりした学習能力を有する学生を採用するために、学校長推薦を受ける推薦入試枠に変更した。後期日程で行っていた、個別学力試験は廃止し、小論文形式で受験生の基礎学力と応用力を同時に判定することにした。また、今後、ゼミナール入試などの入試システムを導入する予定である。[8.1]

資料3：学生定員及び現員表

（各年4月1日現在）

年度	学生定員	学生現員	現員一定員
2016	300	318	18
2017	300	315	15
2018	300	313	13
2019	300	309	9

（歯学系事務室学務担当で作成）

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7605-i4-5）（再掲）
- ・ 指標番号 3, 5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

○ 英語教育の重点化

本学部における英語教育については、従来から 1 年次での本学部独自の科学日本語・英語や 4 年次での実践臨床歯科英会話を開講している。また 1 セメスターのみで開講していた科学日本語・英語を前期、後期の 2 セメスターに時間数を倍増して Scientific and Practical English と改変し、TOEIC 対策授業も組み込んだ。

臨床、基礎の歯科医学教育においても、参考書として英語の教科書を指定し、また英語教材の積極的利用を推進している。

全学教養科目での単位振替制度を利用して海外に短期留学する制度も活用されている。将来の歯科医療の国際化及び教育の国際認証に向けて、グローバルな人材を輩出する素地ができつつある。 [A. 1]

<選択記載項目 B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

○ 離島実習の充実

本学部の設立理念の一つでもあった離島医療についての教育を、従来から統合科目の中に離島歯科医学を開講して行っていたが、2007 年度からは、5～6 年時の臨床実習期間内に全員 1 週間の離島実習を開始し、2019 年度末で満 13 年の教育実績を蓄積してきた。

本学部が設立した歯学部離島歯科保健医療研究所を拠点として、五島の福江島などの保健、介護、医療の各施設を回り、離島におけるそれらのあり方や、歯科医師の役割について体験学習させている。またこの実習は、医療、福祉で今後求められる多職種連携に役立てるため、医学部、薬学部との共修形式を一部取っている。歯科診療所と介護施設を中心に、医科、保健学科との共修カリキュラムを

長崎大学歯学部 教育活動の状況

ベースにして充実した教育を行っている。五島は、本邦においても高齢化社会のモデルケースとなっており、この地域において地域包括ケアの実践を学ぶことの意義は非常に大きい。[B.1]

○ 歯科法医学のカリキュラム充実

歯科法医学の教育分野は医歯薬学総合研究科死因究明専門医育成センターと連携し死因究明医養成事業に貢献している。歯科法医学、法医学分野主催で「歯学部生のための長崎歯科法医学セミナー」を日本法歯科医学会、長崎県歯科医師会後援で開催し、学内外の学生及び教員が意欲的に参加した。また、本学学生を対象とした症例検討会「歯科法医学寺小屋」を平成27～29年度は定期的で開催し、平成30年度以降は講義、臨床実習、研修医セミナー、生涯学習（歯科医師会と連携）という形で教育内容を少しずつ高めていくスパイラルな教育に取り組んでいる。[B.1]

資料4：歯科法医学関係セミナー等一覧

セミナー等	参加者数	
	教員等	学生
歯学部生のための長崎歯科法医学セミナー	13	32
第1回 歯科法医学寺小屋（平成27年12月7日）		7
第2回 歯科法医学寺小屋（平成28年2月26日）	1	6
第3回 歯科法医学寺小屋（平成28年5月19日）		3
第4回 歯科法医学寺小屋（平成28年7月15日）	1	4
第5回 歯科法医学寺小屋（平成29年6月1日）		4

（歯学系事務室学務担当で作成）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率，資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7605-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7605-ii1-2）
- ・ 歯学課程卒業者の歯科医師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 就職，進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業生の進路先を資料5に示す。

本学部において、全国各地から入学していることが、大きな特色である。卒業後は出身地もしくはその近隣に戻る学生が多い。資料6は長崎大学に残る出身地別の人数、資料7は出身地と同じ地域に戻る人数を示している。平成18年度より臨床研修が必修化し、卒業者の大学院進学は、全員が臨床研修医を経ることとなった。必修化以降、卒業後に研修医となった者のうち、51%は本学に残り、49%は他大学の研修医として勤務している。他大学へ勤務する場合は、ほとんどが出身地と同じ地域の大学に戻る傾向が顕著である。

総合歯科臨床教育学分野では専任の教員増員により5・6年次の臨床実習から卒後の臨床研修までを一貫した指導体制の強化を行った。これにより学生や研修医の適性に応じた助言や仔細に渡る個別指導が可能となった。

また毎年、歯学部教授会と長崎市歯科医師会、長崎県歯科医師会との協議会を実施しており、本学部卒業生への評価が高いとの意見をもらっている。この理由の一つとしては、6年次に行う臨床実習において診療参加型の実習を堅持し、学生が直接治療に関わることで医療人としての資質や歯科医師としての技術を高めることができたことにある。

本学部の診療部門である長崎大学病院歯科系診療部門は、県下唯一の高次歯科医療機関として、顎口腔領域の疾患を網羅する8専門診療科と6専門外来・診療

長崎大学歯学部 教育成果の状況

部門，そして入院施設を有し，県民に留まらず，広く西九州エリアの口腔疾患の治療に寄与すると共に，健康長寿に貢献している。また多くの専門医を有することから，病診連携の要として地域包括医療の一翼を担っている。歯学部教授会と長崎県歯科医師会，長崎市歯科医師会とは定期的に協議会を開催し，意思疎通を図っている。[2.1]

資料5：卒業直後の進路先

卒業年度 西暦	医員・研修医		その他
	自大学	他大学	
2016	16	19	18
2017	19	19	11
2018	22	16	13

(歯学系事務室学務担当で作成)

資料6：長崎大学に残る出身地別人数

卒業年度 (平成)	長崎	九州 (長崎を 除く)	中国・ 四国	近畿	中部	関東	東北・ 北海道	合計
2016	7	3	1	0	2	2	1	16
2017	3	9	1	4	1	1	0	19
2018	7	4	4	2	2	3	0	22

(歯学系事務室学務担当で作成)

資料7：出身地と同じ地域に戻る人数

卒業年度 (平成)	長崎	九州 (長崎を 除く)	中国・ 四国	近畿	中部	関東	東北・ 北海道	合計
2016	7	3	1	1	0	0	1	13
2017	3	2	0	0	0	1	0	6
2018	7	1	3	2	2	0	0	15

(歯学系事務室学務担当で作成)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8，12～13）については，国立大学全体の指標のため，学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。